

### 第3学年 学級活動指導案

日 時 平成22年1月27日(水) 5校時

場 所 多目的ホール

指導者 本田 哲也

1 題 材 協力することの大切さを知ろう。

2 単元設定の理由

○ 本学級の児童は(男子9名、女子13名、計22名)、学年当初は、立ち歩いたり、友達とおしゃべりをしたりする子が数名いるために、それ以外の子どもたちも含めて全体的に静かに教師の話聞くことができなかった。また、子どもたち同士の間関係においても、自己中心的で人のマイナス面に目を向けて相手を責めることが大変多かった。

そこで、帰りの会に「友だちのよいこと発見コーナー」を作って発表させたり、教師が児童一人ひとりの長所を日替わりで紹介したりすることを通して、友達の良い面に目を向けさせるようにしてきた。また、学級活動でAFPYのアクティビティを取り入れた活動(パイプライン)を行い、協力することの大切さに気づかせる授業を2回仕組んだ。

2学期になってビーイング(クラス目標をみんなで考えて決める。その後いろいろな場面でクラス目標にもどって反省を行い、今後の活動に生かすことを確認する活動)を行う。この活動を行い、あらためて学級目標について話し合った。結果、「すなおな協力できるなかのよいクラス」という目標を設定し、機会を捉えて学級目標について振り返りを行いながら現在にいたっている。少しずつであるが友達のよさに目を向けることができるようになった子どもたちが増えてきている。また、人の気持ちを考えることで、授業での他の子に迷惑をかけてはいけないことも理解できる子が増え、全体的な落ち着きも感じられるようになってきている。

○ 本題材は、AFPYの活動の一つである『魔法の鏡』というアクティビティを活用する。このアクティビティは、一つの課題解決に向けて、お互いの意見を交換しながらみんなでよりよい解決方法を見つけていくものである。話し合いの過程において、友達の意見を認めたり、一人では見つけられなかった解決方法を協力して考えることの大切さを知ったりすることを目標としている。簡単には課題が解決できない活動だからこそ解決できたときの達成感や満足感を得ることができるという特徴がある。

○ そこで、指導にあたっては、以下のことに留意して活動を行う。

- ① 小集団を構成することで、一人ひとりが自分の考えを言える環境を作る。
- ② アクティビティに入る前に、ルールを確認する。失敗や間違いを経験することが一つの学習だととらえ、児童の自由な発想を制限しないように説明は最小限にとどめるようにする。
- ③ 活動の中で、子どもたちから出てきたアイデアをできるだけメモにとるようにする。課題が達成できたグループもできなかったグループも途中で全体を集めて他のグループのアイデアを紹介する場を設定する。これによりできていないグループはそのアイデアにチャレンジできるし、できたグループにおいても自分たちとは違うアイデアを聞くことで別の方法にチャレンジすることができる。
- ④ 最後に振り返りの時間を取り、今日の活動の感想を(友達のよさや友達と協力できたかを中心とした)書き、発表させる。個々の思いを全体に広げることで学級目標に返していく。

### 3 本時案

(1) 主眼 A F P Yの活動『魔法の鏡』というアクティビティを通して、課題を解決していく中で、友達の意見を認めたり、一人では見つけられなかった解決方法を協力して考えることの大切さを知ったりすることができる。

(2) 準備 目標設定シート 振り返りカード フラフープ

(3) 展開

学習活動・内容	教師の支援（評価）
1 アイスブレイキングをする。 ・進化じゃんけん ・キャッチ	○子どもたちの緊張している気持ちをほぐすための活動として、楽しく活動できるゲームを行うようにする。 ○フルバリューコントラクトとして、「安全に」「一生懸命」「楽しく」活動することを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             どのようにしたら、元の形にもどれるかを話し合っ、やってみよう。           </div>	
2 本時の課題をつかむ。 ・グループに分かれる。  ・課題に対するグループ目標の設定  3 アクティビティ「魔法の鏡」をグループごとに行う。 ・活動のルール ①輪になり、中の2人が片手でフラフープを持つ。 ②フープの中を通り抜け、元の形に戻る。 ③手やフープを離してはいけない。 4 自分たちの活動の様子を発表する。 ・体を反転させながらフラフープを通り抜ける ・そのまま通り抜けて元にもどれない。 ・手をクロスさせて通り抜ける。 5 本時の学習を振り返る。 ・振り返りシートの記入	○あらかじめ日頃の人間関係を考慮したグループを考え、メンバーを設定しておく。 ○アクティビティを行うときのルールを確認させる。 ○学級目標を提示し、活動のめあてを確認させる。 ○目標設定が考えられないグループには、課題を解決するためには、どんなことに気をつけたらよいのかを考えていくよう助言する。 ○最初に出したルール以外は、できるだけ手や口を出さずに子どもたち自身の自由な発想を大切にし、見守るようにする。 ○グループ毎の取組を見て回り、個々の意見やグループとしての取組をチェックしておく。 (評) 自分の考えを言ったり、友だちの意見をきちんと聞いたりして協力して活動することができたか。  ○できたグループは、自分たちの方法を友だちに紹介させるようにする。 ○友だちの発表はよく聞くことを確認する。  ○グループ目標の振り返りをした後、学級目標に戻り、今日の活動はできたかどうか子ども自身に自己評価をさせる。

### (4) 評価

A	B	B への手立て
自分の考えを発表したり、友だちの意見に耳を傾けたりして、活動することができる。	友だちの考えをきちんと聞いて、課題解決に向けて協力して活動することができる。	友だちの考えを聞くことも一つの方法であることを伝え、課題解決のために取り組ませる。

